6.15 参加全自治会の共催で

全国自治会共同斗争を推進しよう！

学生運動の分裂を克服し いかに学生戦線の統一を 勝ち取るのか！

〈はじめに〉

6.15全日共同斗争がその目的を地平線上にかかげました。こと、そしてその6.15斗争の先頭にかかげました。統一会議（主流）の姿があることは市大の各語潮流に深刻な動揺を与えた。民青派は、6.15斗争の放棄なり、その妨害者に転化した。志賀派民学同は、学生戦線統一方針を無原則に破壊せんがなげうち「自治会共斗は第四全学連だ！」なるテマゴギーに固念している。社学同派は、6.15斗争への追随を開始した。6.15全都＝全関西自治会共同斗争の中で顕在化した学生戦線統一への諸派の対応と統一への唯一の道を明らかにしたい。

(1) 民青「全土学連」の「全学連」私物化

民青全学連中央は、昨年11月の第八回中央委で「あらゆる妥協月の第八回中央委であり「あらゆる妥協という諸要求の羅列、拡散路線を実質的に自己批判し、政治斗争への積極的とりくみを開始している。「あらゆる要求」の代りに「中心課題」を、「学園主義」のかわりに「政治斗争を大胆におしすすめ、たたかわない日和見「全学連」ひらの脱皮を開始している。この二つのことは、斗わずすべての自治会の共同行動の実現のための客観的基盤を大きく拡大させている。

だが、共同行動の実現を妨げているのは、民青「全学連」の隠しきれセクト主義である。民青「全学連」の排他的閉鎖的、分裂的なセクト主義は、一切の共同行動を民青「全学連」の承認を一方的に要求し、それを踏み絵にすることによって拒否していることにあらわれている。

(2) 民青中統、一派の動揺と諸要求、主義への再転換。6.15斗争前夜から6.15斗争前夜への移行

市大の民青中統一派は、民青「全学連」の圧殺下に忍して四月斗争、五月初回斗争において政治斗争への積極的姿勢を見せてきた。しかし「5.14関西集会」の失敗以降は、再び元の「諸要求主義」への再転換を行っている。

全学連 区部区

統一会議（主流派）